2016 Iron 10 東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016.8.18.8.8.24.

最盛期の江戸時代の街道筋の景観や家並・多数の間歩(坑道)などがそっくりそのまま残る また、すぐ近くで 銅の露頭がみられるのにもびっくりしました

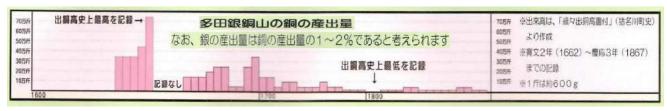




多田銀銅山を中心とした兵庫県猪名川町や川西市、 宝塚市 そして 大阪府豊能町など十数キロ四方 に広がる山里の地域には 古代から 多数の小規 模な鉱床が散在する鉱山地帯。その中心 猪名川 町多田銀銅山は銀・銅を主とする大鉱山。 その 最盛期は 16 世紀後半~18 世紀前半 吹屋(ふ きや) (精錬所・採銅所)が76 軒も立ち、その にぎわいぶりは「銀山三千軒」と呼ばれた。

江戸時代には、新たな銀の大鉱脈が発見されると 幕府直轄となり、最盛期 その生産量は銀で佐渡 銅で足尾に次ぐ大鉱山となって国をささえた。 その後 資源の枯渇とともに衰退しつつも、明治 になって民営化されるが、引き続き昭和40年代 まで 生産がつつけられたという。













東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016.8.18&8.24 【 内 容 】

【2016.8.19. 多田銀銅山の鉱山町「銀山」を歩く】

- 1. 猪名川町広根「銀山口」から銀山川に沿って 多田金銅山の鉱山町「銀山」へ
- 2. 悠久の広場 明治の銅精錬所跡 & 悠久の館 多田銀銅山関係展示見学
- 3. 悠久広場から 多田銀山の鉱山町「銀山」の街歩き 代官所跡・銀山橋高札・本町(甘露寺・本町の家並)・銀山川源流の合流点
- 4. 多田銀銅山の「山の神」金山彦神社・青木間歩の坑道内見学
- 5. 多田銀銅山の大露頭から大切間歩・瓢箪間歩へ

【2016.8.19.多田銀銅山の鉱山町「銀山」の再訪 疑問点を確かめる 】

- 1.多田銀銅山の江戸時代の繁栄をもたらした銀の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置?
- 2. 鉱山町「銀山」 江戸時代の製錬場(採銅所)がよくわからない
- 3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか・・・・
- 4 現説資料で知った間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪渕谷坑道群 間歩ヶ谷支群 新名神道路建設中の県道324 猪渕川沿いを西へ遡る
- 追補参考資料と参考資料リスト

金山彦神和

代世所の門

多田桐瀬山悠久の





東大寺大仏の銅伝承が残る 長津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川







東大寺大仏の朝伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田瀬氏・秀吉の隠し藤 多田銀銅山を歩く 2016, 8.18.& 8.24. 2016.8.30. by Mutsu Nakanishi

東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18. & 8.24.

最盛期の江戸時代の街道筋の景観や家並・多数の間歩(坑道)などがそっくりそのまま残る また、すぐ近くで 期の露頭がみられるのにもぴっくりよった。 By Mutsu Nakanishi 2016.9.5.

【2016.8.19. 多田銀銅山の鉱山町「銀山」を歩く】

- 1. 猪名川町広根「銀山口」から銀山川に沿って 多田金銅山の鉱山町「銀山」へ
- 2. 悠久の広場 明治の銅精錬所跡 & 悠久の館 多田銀銅山関係展示見学
- 3. 悠久広場から 多田銀山の鉱山町「銀山」の街歩き 代官所跡・銀山橋高札・本町(甘露寺・本町の家並)・銀山川源流の合流点
- 4. 多田銀銅山の「山の神」金山彦神社・青木間歩の坑道内見学
- 5. 多田銀銅山の大露頭から大切間歩・瓢箪間歩へ

【2016.8.19.多田銀銅山の鉱山町「銀山」の再訪 疑問点を確かめる 】

- 1.多田銀銅山の江戸時代の繁栄をもたらした銀の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置?
- 2. 鉱山町「銀山」 江戸時代の製錬場(採銅所)がよくわからない
- 3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか・・・・
- 現説資料で知った間歩や銅運鉱・製錬遺構が出た猪渕谷坑道群 間歩ヶ谷支群 新名神道路建設中の県道324 猪渕川沿いを西へ遡る
- ◎ 追補参考資料と参考資料リスト



















































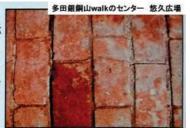


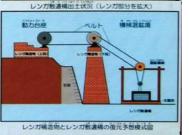
レンガ敷遺構の復元展示

発掘関連では、レンガ構造物の前面にレンガ製道構が出 土しました。レンガ数は激しい振動を伴う選試機械を設置 した資鉱電の基礎と考えられます。 土麓の断面から、レン ガ敷の上に木製板が床として張られていたと推定されます。 現在、出土したレンガ救遺構は埋め戻して保護していま す。 盛土の上に、現代のレンガを使用して発掘調査時の出 土状況に近い形で再現しています。

今回の調査範囲の山側に、一段高い平坦面があります。 全体の機械配置は未調査のため、個々のレンガ構造物の用 途は明らかになっていません。しかし、遺構の配置状況か ら明治 40年(1907)にボイラーが据え付けられたの 上段のレンガ構造物であったと推測されます。当時は 蒸気機関も設置される予定で、発生した動力は滑車とベルトで伝達され、上段と下段それぞれの選鉱の機械を動かす 設計であったと考えられます。下段にある高さが第った5 基のレンガ構造物は、回転軸を保持するための土台として

築造されたものと推測されます。 また、5基のレンガ構造物より約2,4m高い東側のレ ンガ構造物も機械選鉱場の一部で、鉱岩のシュート(落と し場) と想定されます。









銀や銅の鉱石・製錬・製品等の生産物流管理する中心機能を持つ鉱山町 「多田銀鉱山銀山





多田銀銅山 悠久の館で 2014年11月 第名川教育委員会で作成された資料「多田銀銅山」ほかより



堀家製錬所跡の施設概要

職局務省鉱山局の記録によれば、明治40年(1907)、多田鉱山には機械選鉱場の建原と選鉱機械の一部が設置されたと記 力提撃は試験的なものではなく、本格的な推業が行われたことが明らかになりました。



"悠久の館"

83人の略 多田線嗣山の歴史を紹介する推設で 最盛期であった江戸 勝代を中心に絵図や古文書に示された多田線銅の鉱山町や 関歩など戦銅山を構成する搭施設の配置分布などが解説展

示されている。 また、採取した鉱石や製錬工具や銀・銅製錬の解説や発掘調

内部は撮影禁止だったのですが、展示パネルのほとんどが 2014年11月 第名川級有差責会で作成された資料「多田銀 朝山山に 国話そのままの旨真や図解等でまとめられている ので、そちらを参照されたい。





多田銀銅山walkのセンター 悠久の館















多田銀銅山について

















相解・銀に選鉱・製錬されて 大阪・江戸に送られた 多田銀銅山 悠久の館で 2014年11月 猪名川教育委員会で作成された資料「多田級銅山」ほかより

















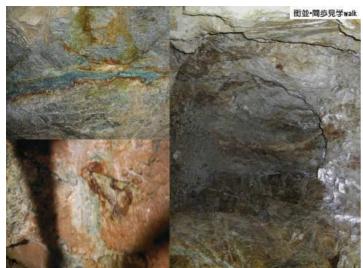




















































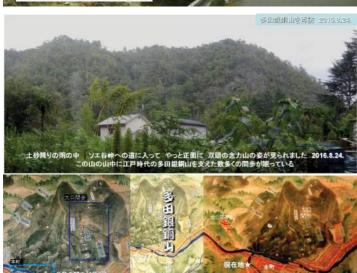
















1.銀の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置



会員の大仏の理論に綱をだしたとの伝承をはじめ、多田源氏や売吉の隠し慮と言われ、古くから鋼・経を産出してきた多田鍛鋼山 書からよく名前は知っているのですが、抜れたのは初めて。 番葉果したのは江戸時代の東文年間、大口間砂で良買の大機総脈が売息され、「鎖山三千軒」と呼ばれる大総山町で保湿から 製修そして晩まで行われ、高所が「無管地として転割したという。その総山町で銀山の様子や屋間から製練の様子が編かれた図 に溢かれている。最近の要援頭をき、総辺で描かれた短鍋山の間かや超山町の様子が屋下家駅に即していることも分かってきた という。秀吉の歌原師御をともに江戸神の繁栄を支えた「大口間か」はどこなかどろうか。 始図にはしっかり描かれているのですが、実態がない。 再度悠久館を訪ねて載えてもらう。 「悠久能広舞前から渡へ軽くその山が大口間かのある念力山」だと、命りにも近すきて、全体の形が見えず、また、今は整備されておらず、実的の国との観されていない。(御山川を接んだ悪の代官所動からだと山の形が絵図に書かれた通り見えるが、今は 立ち入り禁止で入れない。)」。 この充場の同うつの小山が大口間かなど 数多くの間かが最も回く25m 念力山」 を図には毎日間かり様子や砂密が高かれた。

数多くの間多か級もII(225m まガ山)。 株図には詳細に開歩の様子や位置が書かれ、 調査もされているが、険しい岩山、現在は道も 消えているので、よく知った人がいないと入る のは危険だと。 銀山橋の北 金山彦神社周辺から山の形が



3.多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか・・・・

鋼整練から出る製錬スラグ「カラミ」は通常鋼能石に混じる鉄(例えば黄鋼鉱)などにより、 磁石に反応するのに 悠久の館で見た製錬スラグ「カラミ」には磁石に反応しなかった。

磁石に反応するのに 悠久の館で見た段謀スラグ1カラミ」には磁石に反応しなかった。 構成され、我分の少ない胸低さがつかわれたのか・・・ 類だけでなく鏡を取り出すことが重要な契隷であり、大電解を取り出すプロセスとは温度管 罪や呼の雰囲気護神長葉なるので一概には言えないが、異なるチェッウしておさたいと。 私がかつて山口長髪繋山・生野鰯酸山のカラミは磁石に引っ付くので 気になっています。 悠久館でもよりからず、鏡川川に沢山カラミが見つかる北の鏡山川台流点の平炉下で 磁石に反応するか 鎖べてみました。





平炉跡が高台に残る銀山川合流点 青後に大口間歩のある念力山 2016.8.24. 河原には大小スラグがゴロゴロ転がっている

新名神道路建設が進む猪渕谷 2016.8.24.

4. 猪谷間歩ヶ谷間歩群発掘現地を訪ねる

8月19日 多田銀銅山を訪ねた後、関係資料をインターネットで調べていて、偶然、多田銀銅山と同じ銅鉱脈「健山鍛鉱(領名 川水系) 仁頂寺 一万善・裁山 - 差積 - 西多田 を枯ぶ鉱脈」に属する「猪渕谷坑道群間歩ヶ谷支群」の2015.3月に開催された発掘調査研放設明全資料を見けました。 砂糖渕谷坑道群間歩ヶ谷支群 現地説明会資料







場所は貸山口の一つ南のバス序 特別ロから西へ 県道324号を原原の集落から宝塚市の苛却 へ乗から終め子前のこころ、翌在修名神のトンカル工事知場 県道241・公開から発起えて呼ぐ大規念を報合神道32下の第一の場所である。 先日もこの新名神の大規模な工事を興味半々で扱めていました。

現地説明会の資料やインターネットにアップされている数面によれば、二つの坑道商辺が 発掘開査され、17世紀後半 江戸時代の寛永年間の網採掘坑道で、すぐ前で鉱石の遅

盤・整体の施設連携が出土。 採掘した銘名を共通のすぐ前に遊館・整練する施設があるのはめづらしいという

この17世紀後半は、すぐ本の多田節頼山が観も景栄上に均隔と重なっており、多田館頼 山に行っても、高時的な機関山の直端 を開かり設置が扱うれなかったがけり現場探索。 この時代 警戒をわめた多田田僧山でも、小さな印像り上おり、その中で、最小の生命が 小さな印で生産されていたと聞いて、大規模な協山でのたたる整数のイメージとの第に戸座ってい たのですが、どうたと心義権の発展を比較的実践とは特別できることを関できまれた。

もう 埋め戻されているでしょうが、現地も見たいし、また 新名神の工事現場も訪ねてみたいと、 多田銀銅山興勢の帰りに、発測の新名神高速道路現場を伸まで参いてきました。



新名神道路建設が進む猪渕谷 2016.8.24.

総鉱脈が変る北摂の山間を抜けて行く地点。 できょしたが、なんせ新名神の大工事現場。



新名神高速道路工事ルート図と 現地説明会のあった猪渕谷1号間歩・2号間歩の位置を勝手に推察



2. 多田暦朝山の館・郷年産連棒 吹屋はどこに? 「親山」地区の中では「採線所」と呼ばれるような大規 復名製理場はなく、親山川沿しに立ちかぶま並の中 接渡色のある家が像つが扱かれていて、それが現場 の影響場である原庭だと間巻ました。 総図の中で 田限口番所記し、大口観り離大口目そんな収録をあ つけました。収屋の遺構測者についてはよくわからす。



屋根に煙抹きのある菱鉢場の吹き屋 (田原口番所周辺で











※田藤剛川のプラミトや・は7億石とつつきまた カラミには扱うが含まれ、曜石に反称すると思って、比でのですが、銀川川で拾ったカラミが樹石に反応しなかったのが不思議で、小さなカラミトをボウットに入れて帰ったのですが、こくいさな強力なネオジュウム酸石を近づけると 部分的にくっつくところがありました。また、炉型片と思われるカケラも ネオジュウム酸石に反応。 多田服線川のカラミにも扱うか含まれていることを確認しましたので、訂正します。 2016.9.9. Mutsu Nakanishi

猪渕谷の間参発振現地探して 工事中の新名神高速道路に沿って参く 2016.8.24.

強渕ロバス停より、工事中の新名神沿い西へ 猪渕の集落を抜けて 宝塚市切畑への峠へ

多田銀銅山から銀山口のバス停へ戻ってきたのは午後4時、 精測へは、川西への広い坂道県道と巨を南へ一つ校信候を越え た精調口に出て、新名神の工事が達む広い谷節を少し登ったところである。地図とscogle earthで 位置を情報しているので、 時間は重いが、行けるだろう。ちょうどいながあるので、括鎖口へはバスで峠を構える。 昨年を越えて報知のいて決等を行ると、あわただい、騒音の中、眼前には新名神道経験映中の工事現場が広がる広根奥の谷の 交差点。 落条横を挟んで巨大な壁が東西にのびている。 工事現場を見るといつもワクワク、気持ちが高郷して楽しい。







広根の線山口パス停前 集倒に田薗を東西に扱ける工事中の新名神 南へ県道12の坂が幹を越えて殖済口



権別ロバス停載 取削には新名等道路建設中の工事限職が広がる展道12号 広信県の谷の交差点 2016.8.24 東西に広がる新名階の工事取職に沿って 名へ格談から宣集市団際へ 推測谷を置る保道22号機である 人というによって、日本観測に昇音のがクラクラ

新名神道路建設が進む猪渕谷 2016.8.24.

724号に入ると東側は巨大な新名神の土焼りがそびえ、その間を付け替え工事中の飛翔川と風造が答を覆ってゆく。 開鎖で巨大工事が追入でいるのに、騒音も小さく、粉起もすくなく、工事現場も整然としている。 親等の工事も凝集が進んで、オマートになったことにいるくり。





丁事が推む 猪渕谷県道324 左の写真 西側 精剤谷方面 右の写真 東側 報名川・川西方面 2016.8.24





精巣の集落の入口 原間は集業の資を行くが、業務を通り抜けて、また、県間に合流する 2016.8.24



さらに遡って 峠ちかく、現地説明会資料をみつけた間歩や銅選鉱・製練遺構が出た猪渕谷坑道群間歩ヶ谷支群の 場所に向かう。ほぼ峠の現在 宝塚へ抜けるトンネル工事が行われている位置へ県道をのぼってゆく。









宝塚市切畑への峠を新名神はトンネルで越えてゆく トンネルの工事現場までやってきました 2016.8.24





間歩や銅選鉱・製練遺構が出た猪渕谷坑道群間歩ヶ谷支群 現脱資料 [2] 2014.3.2.





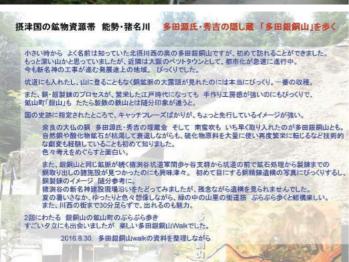
猪渕集落を出て 県道を少し西に行った谷間 猪渕谷坑道群1号・2号間歩周辺 2016.8.24. このあたりだと思うのですが、禁道の両側に点在する工事用入口や林へ通じる磁道も中へは入れず、また、工事関係者からは遺跡について わからず。 ただ、ここの奥の斜面の林の中に小さな祠が祭られていました。





間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪渕谷坑道群間歩ヶ谷支群 現説資料 [1] 2014.3.2.





参考追補資料

東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田瀬氏・秀吉の隠し藤「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18.8.8.24.

最盛館の江戸時代の 道節の景観や家弟・多数の関歩(坑直)などがそっくりそのまま残る 竹匠くで 個の露頭がみられるのにもぴっくりしました

THE BOOK



豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

北近の山中にある毎田線剛山が今秋、国史跡の指定を受ける。 共庫県第名川町や川西南、宝庫布はど十巻木口の方に多数の小規模な鉱床が散在する鉱山 地帯で、近世や近代の遺跡が良針に弾り、国内鉱業のかみの一シーンを物語る。 江戸時代に代育所があった「建加田川」には現て、資井板「悠久の鉄」が立つ、近くにある青木間 歩(まぶ)(状況)を訪れた。遠中、本立の間からは遠らしい穴があちこちのぞく。 現在の坑道は戦後に飛送機で広げたものだが、天州につさな立て坑があった。 「江戸時代・平周リで転除を造った「じおい思り」の跡です」と獲名川町教育委員会文化制担当 の青末芸者さんが抱えてくれた。 原明に定々しく用られた堂が浮かび、地下水が涂る。整(たがね)で岩を打つ響きが聞こえた気がした。

■11世紀から記録

多田報頼山には東大寺の大仏造営の際に綱を献上した伝来があるが、 史料では11世紀の謀能記録が最も古い。 最虚期は16世紀世界から16世紀前半。 聖任秀吉が開発して大坂城の財改を孤したとされる。 万治9年(165年)に良質な起脈が見つかると江戸幕府が直轄し、 代官所を置いた。

井沢英二・九州大名誉教授(鉱山学)によるとピーク時は推定で鍛け 佐波に、頼は足尾に次ぐ産出量を飾ったという。 吹屋(ふきや)(精健所)が76封も立ち、そのにぎわいぶりは「磁山三 千軒上が呼ばれた。だが間になく湧水のため収録が難したが、高品 位鉱脈も枯渇。天和2年(1682年)に民間講像に変えられた。

平質源内が訪れ、対策を探ったが良楽はなかった記録がある。 それでも住民や民間企業が採着を紙々と続け、 閉山したのは1973年だった。















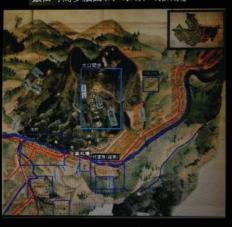
銀山町間歩絵図本町・大口間歩・代官所付近

江戸時代に良質な鼓筋(鉱脈)が発見さ れ、ふたたび盛山を迎えるきっかけとなっ た間歩。寛文剛の最重要間歩である。周 辺には多数の間多が描かれ、大口間多と その周辺の間多を含め、七口間多とも称 される、「銀山町間多」には大口間多とそ の枝鼓の諸間歩をぐるりと取り囲む種が

描かれ、その重要性がうかがえる。

大口間患

銀山町の中心として栄えた町並み。絵図 には遊の両側には建物が軒を連ねて描か れている。現在も旧家が残され、往時の様



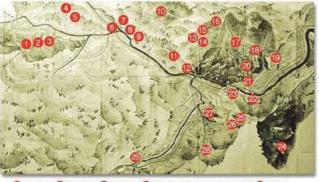
江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (1) 江戸時代 最盛期の銀山町下流の銀山町東部分 大口間歩周辺

銀山町の中心で 代官所・高札場・本町には吹麈(銀・銅の精錬工房)などの家並みがぴっしり並んでいる。 また、大口間少は良質の総脈が発見され、再び繁栄のきっかけとなった間少。 寛永年間の最重要間少である。 絵図には、大口間少周辺に多数の間少が記されており、周辺間少を含め、7口間少と呼ばれた。



悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料

多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



●千石間歩 ● 瓢箪間歩 ●台所間歩 ● 薬師堂 太閤秀吉公 勧進山神宮 ● 久徳寺

○大水技 ①普請止 ⑤ 御倉間歩 ② 階間歩 ① せと谷 ① 金山彦神社 ⑩川戸間歩
⑥ 桜間歩 ② 今間歩 ⑤ 大徳間歩 ⑪ 矢竹間歩 ⑪ 大口新間歩 ⑪ 珍鉱間歩 ⑫ 御米蔵之所
⑩ 本間歩 ⓓ 水技 ❷ 銀山代官所 ⑳ 大金間歩 ⑫ 十六人間歩 ㉑ 千石院寺 稲荷社

◎甘飲寺 ❷御神宮 御旅所 ◎ 牢屋 ◎ 新口 御口屋 番所

新名神広根地区工事現場 猪渕谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日 より

江戸時代の又献によると、多田顧剛山ではらくから「商業改」が行われていたようで、寛永9年(1632)、多田顧 無対抗圧が登録地に伝えられたというに対が残るれています。 場外、多くの地山が「原料」の大橋で大松へ出供 なか、多田顧剛に工規等の者に当めて「議職」(後継列)の大橋で大松に出場していました。東田製川では、元为年(1883)、山下 設置にとちない、これまで各川でで行われていた山原(後継)が禁止され、最小割と山下町の収録での観察に限られるようになります。











い郷) を取り出します







合調を初落し、鍵を含ん

多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



多田鎭銀山跡 探素 のpageより

http://www.geocities.jp/l_windmill/ginzan/ginzan.htm

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料 銀山川が流れ下る狭い谷話 道の両側に「健山三千軒」と呼ばれた鉱山町とともに 当時の健山を支えた大口間歩・篠落 神代電所・改山は神社(山の神) そして 銀山〜のインの人口(神所) (東大東口事所 南:海口事所 西:奥山口事 所 北田田口書所など当時の子田説朝山の様子が振かれ、当時の数果ぶりがかがえる。

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (2) 江戸時代 最盛期の銀山町 上流の銀山町西北部分 瓢箪間歩周辺

秀吉の馬印を掲げることを許されたと伝えられるほど大量の親・鋼を産出。秀吉・大阪を支え、秀吉の隠し載とも 呼ばれたほど、大口間先とともに多田銀銅山の中心的間を。



悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料

豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

■「南蛮吹」を駆使

井沢名誉教授は「近世鉱業で重要な「南蛮改(ぶき)」が発展する場となった」自を重視する。南蛮改は銀銭石から値を分離する。 当時では最先端の精錬技術、大坂の吹原で用いられていた最新技術が17世紀前中には多田でも駆使され、生野級山に伝えたことが分かっている。大阪平野の中心からわずか約20年の地の手が、技術導入につながったようだ。 提鉱から精錬までを配修した「提供多田銀銅山色の牧立(はくせきぶきたぎつ)次第元増(あら率し)」など様々な古文書類が現存し、 鉱山経営の実態と変遷が更料から確認できる点でも、貴重な遺跡だという。

猪名川町は15年前から遺跡の保存と活用を本格化。 一帯を踏査して14の間歩群を確認し、代官所跡や番所跡などを発掘した。

第名川町は15年前から連勘の保存と活用を未稼化。 一帯を踏まして14の間事影響を認め、代官所語や番所論などを発掘した。 国史跡となり、さらに拍車がかかる見通しだ。 だが課題もある。一部の心ない人たちが掲布地に無断で立ち入るなどして霊脈や関歩 で組石を採取、遺産を被導すた場合に関すたしている。 多田に残る秀吉の埋職金の近りかを記したと終する文書はとれも明治以降のもの。 技趣賞金を調達しようとは脈の豊かさを消傷した言説が変彰したようで、非沢名誉教授 は「全公の仲間と上解じる。

鉱業近代化の清機も

明治維新の後、各地の有力鉱山が官営化される中で、多田銀銅山は民間の手で採掘

明治接新の後、各地の有力低山が官窓化される中で、多田田田川山民間の手で採却 が続けられた。 港名川町には島祖県の鉱山家、堪家が明治や年(1907年)に先進的な機械選絡議会 議職場者建設・第1次大戦後の顧信格高速のため未完起に終わったが「宣室鉱山とは 異なる鉱業近代化の試みとして貴重と井沢京ニ・九州大名誉教授は指摘する。 れんが造りの遺構が資料額1巻の類別の開始に保存されている。 長庫県川西市にも江戸時代は多田銀銅山の安原、精健所)が集積し、明治以降も銅の 精練が続けられた。 同市電土銀貨取引約第1至機業していた近代的な精健所の経営者、平安(ひらやす) 家の旧邸宅を利用したもの。 株体的にと機能を示さ進めば深るか。他に参考があるほぼ用の原用を含むたけまり。

級地内には精健所の遺構が残るほか、鉱山資料や発掘成果の展示室を設けてあり、 住時の様子を今に伝える。















摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩

4公 十工

総 括

小さい時から よく名前は知っていた北摂川西の奥の多田銀銅山ですが、初めて訪れることができました。 もっと深い山かと思っていましたが、近隣は大阪のベットタウンとして、都市化が急速に進行中。 今も新名神の工事が進む発展途上の地域。 びっくりでした。

坑道にも入れたし、山に登ることもなく銅鉱脈の大露頭が見れたのには本当にびっくり。一番の収穫。

また、銅・銀製錬のブロセスが、繁栄した江戸時代になっても 手作り工房感が強いのにもびっくりで、 鉱山町「銀山」も たたら製鉄の鉄山とは随分印象が違うと。

国の史跡に指定されたところで、キャッチフレーズばかりが、ちょっと先行しているイメージが強い。

奈良の大仏の銅 多田源氏・秀吉の埋蔵金 そして 南蛮吹も いち早く取り入れたのが多田銀銅山とも。 自然銅や酸化物鉱石が枯渇して衰退しながらも、硫化物原料を大量に使い再度繁栄に転じるなど技術的 な劇変も経験していることも初めて知りました。 色々考えをめていることも初めて知りました。

また、銀銅山と同じ鉱脈が続く猪渕谷坑道軍間歩ヶ谷支群から坑道の前で鉱石処理から製錬までの 銅取り出しの諸施設が見つかったのにも興味津々。初めて目にする銅精錬遺構の写真にびっくりするし、 銅製錬のイメージ 随分参考に。

猪渕谷の新名神建設現場沿いをたどってみましたが、残念ながら遺構を見られませんでした。 夏の暑いさなか、ゆったりと色々想像しながら、緑の中の山里の街道筋 ぶらぶら歩くと結構楽しい。 また、川西の街まで30分足らずで、出れるのも魅力。

2回にわたる 銀銅山の鉱山町のぶらぶら歩き すごい夕立にも出会いましたが 楽しい多田銀銅山Walkでした。

2016.8.30. 多田銀銅山walkの資料を整理しながら

参考資料

- 1. 猪名川町教育委員会編「多田銀銅山」 2014.11月
- 2. 悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料
- 3. 豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊)兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 インターネット より http://www.nikkei.com/article/DGXLASHC07H2S_X00C15A9AA1P00/
- 4. 多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理

多田銅銀山跡 探索 のpage より http://www.geocities.jp/i_windmill/ginzan/ginzan.html

5. 多田銀山史跡保存顕彰会 のページ

http://www.tadaginzankenshoukai.com/多田銀銅山探訪ガイド/多田銀銅山の史跡/

- 6. 400年前からある"吹き場のまち" 多田銀山精錬所の街 下財町・山下町 http://www.eonet.ne.jp/~koutaro/local/gezai.htm
- 7. 兵庫県まちづくり技術センター

新名神広根地区工事現場 猪渕谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日

8. 【Youtube 動画】 猪渕谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会 平成26年3月14日

https://www.youtube.com/watch?v=ApjlaRy01Ek-